

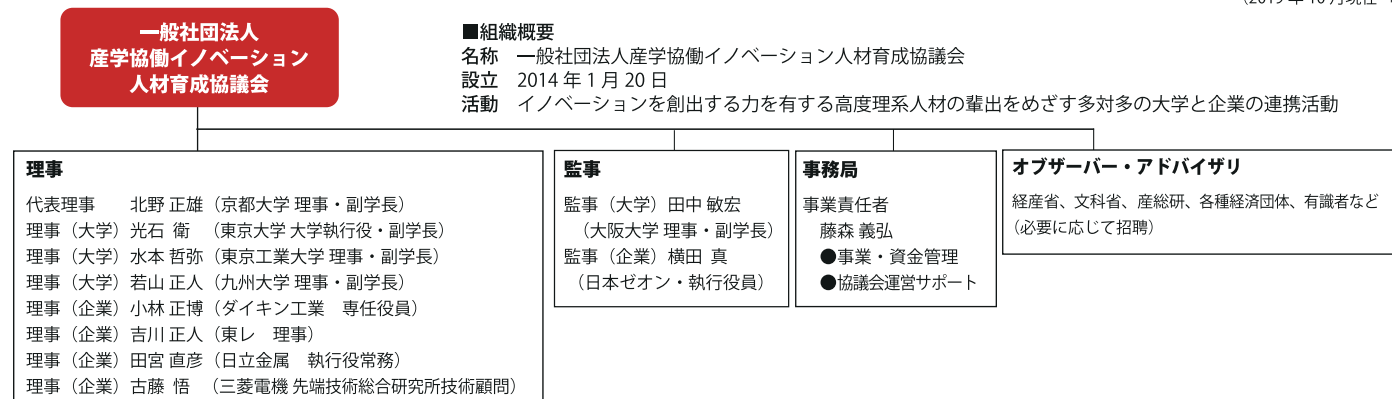


[大学] 問い合わせ先

 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 キャリア支援センター 高度イノベーション博士人財育成ユニット TEL: 022-795-3231 E-mail: high-ca@grp.tohoku.ac.jp	 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 学生センター棟2F Tel: 03-5978-5146 Email: docca-all@cc.ocha.ac.jp	 奈良先端科学技術大学院大学 教育推進機構 キャリア支援部門 〒630-0192 奈良県生駒市高山町8916-5 TEL: 0743-72-5921 E-mail: career@ad.naist.jp
 筑波大学 就職課ダイバーシティ・アクセシビリティ・ キャリアセンター／学生部就職課 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 TEL: 029-853-5948 E-mail: career@un.tsukuba.ac.jp	 首都大学東京 学生サポートセンター キャリア支援課 〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 TEL: 042-677-1165 E-mail: gakwww@tmu.ac.jp	 奈良女子大学 男女共同参画推進機構 キャリア開発支援本部 〒630-8506 奈良市北魚屋西町H棟501 TEL: 0742-20-3572 E-mail: career-k@cc.nara-wu.ac.jp
 東京大学 大学院工学系研究科機械工学専攻 GMSIプログラム事務局 〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 Tel: 03-5841-7437 E-mail: office@gmsi.t.u-tokyo.ac.jp	 京都大学 教育推進・学生支援部学生課学生支援掛 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 TEL: 075-753-2397 E-mail: research-internship@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp	 岡山大学 全学教育・学生支援機構 高大接続・学生総合支援センター 博士人材キャリア開発セクション 〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1 TEL: 086-251-7198 E-mail: przw48ay@okayama-u.ac.jp
 東京工業大学 イノベーション人材養成機構 事務局 〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1-56-1 Tel: 03-5734-7615 E-mail: iidpinfo@jim.titech.ac.jp	 大阪大学 キャリアセンター キャリア教育部門 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番8号 テクノクライアンス棟 TEL: 06-6879-4136 E-mail: consortium@uic.osaka-u.ac.jp	 九州大学 学務部キャリア・奨学支援課 〒819-0395 福岡市西区元岡744 TEL: 092-802-5905 E-mail: gascareer3@jimu.kyushu-u.ac.jp
 早稲田大学 博士キャリアセンター 〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1 TEL: 03-5286-8041 E-mail: info@waseda-dscc.jp	 大阪府立大学 高等教育推進機構 高度人材育成センター 〒599-8531 大阪府堺市中央区学園町1-1 TEL: 072-254-8266 E-mail: jinzai@21c.osakafu-u.ac.jp	 鹿児島大学 大学院 理工学研究科 地域コトづくりセンター 〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-40 TEL: 099-285-7689 E-mail: kotozukuri@gm.kagoshima-u.ac.jp 理工学研究科等研究科 工学系学務課大学院係 TEL: 099-285-3058 E-mail: sedaigakuin@kuas.kagochima-u.ac.jp
 東京理科大学 学生支援部就職課 〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3 TEL: 03-5228-8125 E-mail: ksyusyoku@admin.tus.ac.jp	 神戸大学 キャリアセンター 〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1 TEL: 078-803-5217 E-mail: stdnt-shushoku@office.kobe-u.ac.jp	

協議会組織図

(2019 年 10 月現在・敬称略)



2019
年版

研究・人材育成を推進する

研究インターンシップ

「一流の研究者になる前に、一人前の研究者になる」

協議会(C-ENGINE)は、研究インターンシップをとおして、学生が一人前の研究者として身につけるべきトランスファラブルスキルの習得を支援します。
 さらに、産学の対話と知の交流により相互理解を深め、我が国の研究力に厚みをもたせイノベーションの創出に貢献します。



一般社団法人 産学協働イノベーション人材育成協議会 (C-ENGINE)
 〒606-8302 京都市左京区吉田牛ノ宮町4 日本イタリヤ会館305
 TEL: 075-746-6872 MAIL: contact@c-engine.org URL http://www.c-engine.org



一般社団法人 産学協働イノベーション人材育成協議会
(C-ENGINE)

C-ENGINEのインターンシップ 3つの特徴

1 組織と組織のインターンシップ

コンソーシアムとして事例を共有し、
研究インターンシップの質向上につなげます

2 中長期の研究インターンシップ

基本技術の指導や習得だけでなく、より実践的な研究をととして
協働する場を提供します

3 オンラインとオフラインでの マッチング

IDMシステムと大学コーディネーターのハンズオン支援により
効率的で丁寧なマッチングのしくみを構築しています

多様な場で活躍できる人材を育成

C-ENGINEでは、研究インターンシップをととして学生が一人前の研究者として身に着けるべきトランスファラブルスキルの習得を支援します。また、研究者としての能力向上の目標設定のフレームとして「**トランスファラブルスキルRISE**」を提唱しています。

参照

学生が、アカデミアに限らず産業界においても活躍するために、トランスファラブルスキルを習得することのできる、社会と連携した教育プログラムの重要性が増えています。

C-ENGINEの研究インターンシップは、大学院教育の一環として、社会の要請に応える新しい取り組みです。

受入企業には以下の観点からインターンシップを実施するようにお願いしています

●企業における研究開発のやり方とマネジメントを学ぶ ●チームワーク、リーダーシップについて学ぶ

研究インターンシップを契機とした産学連携

C-ENGINEでは、研究インターンシップをととして産学の対話と知の交流を深め、我が国の研究力に厚みをもたせ、イノベーションの創出に貢献します

C-ENGINEの研究インターンシップでは、オープンイノベーションの創出に向けて、産学共同研究に至る以前のアイデア段階のものについて積極的に取組むことを推奨しています。競争的領域における分野横断的な知見の獲得、あるいは非競争領域における長期的視野に立った基礎研究の種探しができます。

マッチングプロセスにおいて、各大学所属のコーディネーターが、学生・教員と企業のパイプ役を果たし、

●学生・大学・企業がWin³となる有意義なインターンシップを実現します

C-ENGINEは産と学の交流をととして イノベーションを創出できる人材育成をめざす 大学・企業のコンソーシアムです

学生が身につけるべき
トランスファラブルスキル**RISE**

参照

インターンシップを経験した学生の声

省庁からの期待の声

東京工業大学D1 × 大日本印刷

【学生の感想】

自分自身が研究者として成長できた。インターンシップ先で、研究活動していく中で、うまくいかず壁にぶつかることが多々あった。そんな時に重要であったのが、計画→実験→結果・考察→再計画というプロセスであり、この一連の流れがしっかりとできると研究が良い方向へ向かうと強く感じた。

【後輩へのメッセージ】

インターンシップは、普段見過ごされがちな研究者としての最も重要な能力について見つめ直す絶好の機会である。ぜひ、インターンシップに参加する皆様には、思い切って普段の研究とは違う研究に携われるようなインターンシップに参加してほしい。インターンをきっかけに、研究者としてどのような能力が必要なのか、どのような能力が欠けているのかを見つめ直してほしい。

【企業担当者から】

得られた結果についての考察や、次の実験計画を決めるにあたり、社員に対して遠慮することなく自分の意見を主張し、ディスカッションすることができていた。技術的な点において、学生の専門分野の視点がとても新鮮であり、非常に勉強になった。

奈良女子大学D2 × 日本触媒

【学生の感想】

バックグラウンドの違う人たちが集まることでさまざまな考え方を共有でき、良いものを作っていくためにはディスカッションは大切だと改めて思いました。企業では商品化を視野に入れた研究になるので、基礎的な部分よりも、良い性能を出すための分子設計といった先のことに進んでいるという点で、大学での基礎研究とのギャップを感じました。

【後輩へのメッセージ】

短期よりも数週間から数か月のインターンで少し大きなテーマに取り組むこととお勧めします。専門とは違う部署でも、自分の専門がどのように役立つのかを知ることができるし、逆にこれまでとは違う目線で物事を見る良い機会になると思います。

【企業担当者から】

期間の中盤では、弊社若手社員と頻繁に研究／技術についてのディスカッションを行うようになり、研究に対する積極的な面が見られた。実施前からテーマに関する予習を行い、知識を深めようと努力しているところが見られた。

経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進室

産学協働イノベーション人材育成協議会は、短期のインターンシップとは異なり、学生が企業において実際の研究業務に携わることで、一人前の研究者としてのスキルを習得する中長期の研究インターンシップを推進してまいりました。今年度で協議会が自立して4年目を迎えますが、この取組が新規事業に発展する事例もあり、産業界からの期待もますます高まっているところで。

経済産業省と文部科学省は、理工系人材を戦略的に育成するため、平成28年8月に「理工系人材育成に関する産学官行動計画」をとりまとめております。研究型インターンシップの普及は、本行動計画の重要施策の一つでもあります。経済産業省としても、産学協働イノベーション人材育成協議会の実施する研究インターンシップの有効性について、産業界および教育機関へのさらなる普及に努めてまいる所存であり、関係の方がたの積極的な参画とご理解をいただきたく、よろしく願いいたします。

文部科学省 高等教育局 専門教育課

国際化や新技術の発展等により、産業構造や就業構造が急速に変化するなかで、「産学協働による人材育成」は、もはや欠かすことのできない重要な要素であり、とくにインターンシップは、効果的な教育手法として注目を集めています。

昨今、企業が独自に実施するものも含め、より短期間のインターンシップに参加する学生数はますます増えています。そうしたなか、C-ENGINEが進める研究インターンシップは、大学と企業の積極的な連携の下、大学院生がその専門性を活かし、企業のリアルな研究現場に長期間入り込み、一人前の研究者として共同研究等を通じて企業が抱える課題の解決をめざすもので、政府や文部科学省の政策にも盛り込まれています。

こうした取組は、高い教育的効果を発揮しているのみならず、企業からも大きな期待が寄せられており、わが国のインターンシップの理想のかたちの一つとして位置づけられ得ることは間違いありません。

引き続き、参加する学生数や企業数の増加をめざすとともに、人文・社会科学も含めた分野の拡大等による、より発展的な取組の推進などにより、産学協働による人材育成を通じたわが国のイノベーションの創出等にますます貢献していただくことを期待しています。

代表理事からのご挨拶

博士人材育成と産学の知の交流を

一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会
代表理事 北野 正雄（京都大学 理事・副学長）

日本では研究大学と言われている大学においても、博士進学率の低下は深刻である。原因は複合的だが、大学のなかでは、教育システム、研究と教育のエフ・オートのバランス、専門性に対して汎用力の涵養をどのように教育方針に盛り込むか、といった問題がある。

C-ENGINEのインターンシップは、大学においては博士課程プログラムの改善・充実策の一環と位置づけられ、社会のさまざまな分野で活躍できる有能な人材を育成することで、博士人材の需要、待遇改善を喚起し、意欲のある若者が博士号をめざすという、正のフィードバックをもたらす方策として実施している。複数の大学と複数の企業によるマッチングシステムは、新たな知の結合によるイノベーションに向けた種探しを可能にするインフラである。

C-ENGINEの研究インターンシップは、各大学のコーディネーターが仲介するマッチングプロセスの段階を含め、大学と企業が身近に対話する機会でもある。積極的な活用をお願いしたい。

協議会事業を所管する会員大学の役員

(敬称略)



東北大学
理事(教育・学生支援)・副学長
滝澤博胤



筑波大学
大学執行役員(DACセンター担当)
五十嵐浩也



東京大学
大学執行役・副学長
光石 衛



東京工業大学
理事(教育)・副学長
水本哲弥



早稲田大学
副総長
笠原博徳



東京理科大学
副学長
北村春幸



お茶の水女子大学
理事(研究・イノベーション)・副学長
森田育男



首都大学東京
副学長
清水敏久



京都大学
理事(教育・情報評価)・副学長
北野正雄



大阪大学
理事(教育・入試・学生支援)・副学長
田中敏宏



神戸大学
理事(病院・学生・危機管理)・副学長
杉村和朗



大阪府立大学
副学長(教育・入試)
高橋哲也



奈良先端科学技術大学院大学
理事・副学長
垣内喜代三



奈良女子大学
副学長(男女共同参画)
春本晃江



岡山大学
理事(教育・国際)・副学長
佐野 寛



九州大学
理事(グローバル対応・産官学連携・知的財産)・副学長
若山正人



鹿児島大学
理事(教育)・副学長
武隈 晃

■大阪大学大学院 生命機能研究科 上田 昌宏 教授
研究において、自分を成長させることができるのは自分しかいないと学生には感じて欲しいと思っています。自分に必要なものは本人が一番わかっていると思いますし、インターンシップに参加することで学生も多くの学びを得られたものと感じています。企業と大学が交流できるような仕組みが、もっと増えていくといいと思います。

■お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 相川 京子 教授
企業では、色々なバックグラウンド・年齢層の方と交流する機会が豊富にあると思いますので、学生にはそのなかでコミュニケーション能力も磨いてほしいと思います。大学にいないだけではできない経験をできるというですね。それから、企業で経験した最新の研究に関して、もちろん守秘的なところは難しいとしても、大学での研究活動におけるアイデア創出に生かしてくれるのではないかと期待しています。